

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語活動・外国語	道徳
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが学習の見通しをもてるようにする。</li> <li>単元のねらいや子どもの実態に合った学習活動を取り入れる。</li> <li>自分の考えを整理して書く活動や友達と交流する学び合いの活動を充実させる。</li> <li>音読を毎時間取り入れ、文章に親しませ、語彙力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で使う用語について習熟させる。</li> <li>使用する資料を精選し、読み取る活動を取り入れる。</li> <li>「なぜ～」の発問を取り入れ、因果関係を児童に考えさせる。</li> <li>課題に対する予想を立てて、教科書等で調べ学習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の主体的な活動を引き出すために、問題解決型の授業を展開する。「めあて」「自分の考え」「調べよう」「まとめ」「たしかめよう」「ふりかえり」等の手順で授業を行う。</li> <li>東京ベーシック・ドリル評価テストで、理解が不十分だった項目を明確化し、重点的に指導する。</li> <li>板書の技術をはじめ、授業力を高める。特に、文章問題を解くときの有力な手助けとなるテープ図や、線分図などは丁寧に扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験に関わる学習については学習過程を「課題→予想→実験・観察→感想→結果→考察→結論・まとめ」とし、一貫した学習指導を行う。</li> <li>実験の予想、考察などについて、三密に気を付け、ペアなどで話し合わせる。</li> <li>授業で使う用語や実験器具の扱い方について習熟させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜかな」「ふしぎだな」「もっと知りたい」「はっけん!」「やってみよう」「やってみよう」等の子どもがつぶやきを取り上げる。</li> <li>感じたことや気付いたことをペア、グループ、全体で話し合わせる。</li> <li>子どもが、日頃見聞きしている事柄を学習教材にすることで気付きや疑問を引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業につながる常時活動を設定し、授業の初めに行う。</li> <li>感じたことや気付いたこと、表現したいことなどを発表し、友達の違いや意図を知って、楽しく音楽表現ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい用具や素材に出会うときには、十分に試したり慣れたりする時間を確保するようにする。</li> <li>班の中で作品を見合ったりアドバイしたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習に関わる手順やポイントを板書で分かりやすく示したり、全体やグループで説明したりして、見通しをもち、学習が行えるようにする。</li> <li>個人差に対応できる個別の支援をきめ細かに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがめあてをもって運動できるようにする。</li> <li>説明や準備の時間をできるだけ短くし、運動量を増やす。</li> <li>友達の動きのよさを見つけたら、自分の動きをICTで確認したりして、運動に生かすようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌やクイズ、チャンツやゲームなどの学習活動をバランスよく配列する。</li> <li>子どもの活動や、子ども同士で発した言葉を積極的に称賛し、全体に広める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入で本時に扱う内容項目に対し、どのような考えをもっているのかを聞く。</li> <li>自分のこととして考えられるような身近なことでの導入を行う。</li> <li>教科書を使って中心発問を考え、内容項目に沿った授業展開を行う。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習やめあてを振り返り、次時への見通しをもつ。</li> <li>社会や算数、理科などにおいては、まとめの中で押さえるべき語彙や定義、公式等を確認する。</li> </ul>										
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語辞典、漢字辞典を、3・4年の児童数分、教室に用意する。</li> <li>毎時間の授業の流れを掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が作成した新聞やパンフレット等は廊下に掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、九九表などを手元に置くことができるよう準備しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察カード等は教室後ろまたは側面に掲示する。</li> <li>学級園を有効に活用する。</li> <li>三密を避けて活動できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察カード等は教室後ろにまたは側面に掲示する。</li> <li>話し合い等はホワイトボードを活用して、視覚化を意識して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな音符・休符・記号が分かるようにカードを掲示する。</li> <li>楽器は、題材に応じて使いやすいうように配置する。</li> <li>ICTを活用し、楽器の演奏法や演奏の様子を視聴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な材料を使いやすいよう配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具の名前や使い方、また作り方が分かるように、ポスターや試作品を掲示する。</li> <li>ICTを活用し、細かい手元の動きが見えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用する。（追っかけ動画）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用の教室（イングリッシュルーム）を使って授業を行う。</li> <li>ICT機器を活用し、デジタル教材を視聴しながら活動ができるようにする。</li> <li>日常的に使う単語やフレーズを教室に掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現できるように、ネームマグネット等を用意する。</li> </ul>
補充学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じて、基礎的な知識の確認ができる問題を用意し、取り組ませる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後子ども教室や地域未来塾では、発展的な学習を進める。</li> <li>休み時間で、個に応じた支援を行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間等で、個に応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間等で、個に応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間等で、個に応じた支援を行う。</li> </ul>			
東京ベーシック・ドリルの活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じてプリントを選び、家庭学習で活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週金曜日のさんさん算数で活用し、個々の理解度に応じて進める。</li> <li>各学期に東京ベーシック・ドリル診断テストを実施し、次学期の指導に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じてプリントを選び、家庭学習で活用する。</li> <li>東京ベーシック・ドリルを活用する。</li> </ul>							
家庭学習（毎日30分から1時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読</li> <li>漢字</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリル学習</li> <li>定期的な復習プリント（1ヶ月後）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主学習</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題プリント</li> </ul>		
図書資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書資料を活用した授業を年1回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に関連する図書資料を教室に置いておく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に関連する図書資料を教室に置いておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に関連する図書資料を教室に置いておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に関連する図書資料を教室に置いておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作曲者に関連する資料を教室に置いておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を作る際に参考になる資料を用意する。</li> </ul>			

※ICTの活用…ICTを活用した授業を推進し、各教科等においてICTの有効活用を図る。